Library News 京教図書館ニュース
2024年5月号 No.284

『学校ってなんだろう？:教育の社会学入門』
苅谷剛彦（著）
筑摩書房,2005
ISBN:4480421572
請求記号:370.34||KA 67
配置場所:新書　南館２階

私のすすめるこの1冊

中村 瑛仁（教育学科 講師）

『学校ってなんだろう？－教育の社会学入門－』

苅谷剛彦（著）

「どうして勉強しないといけないの？」「校則はなぜあるの？」「試験はなぜこのやり方なの？」「そもそも学校がないと何が困るの？」

学校生活のなかで、こうした疑問をもった人はいるだろうか。あるいは、こうした疑問は括弧に入れておいて、「ひとまず勉強した」という人も多いかもしれない。こうした「素朴な疑問」を「再訪」し、改めて学校の役割や機能について探求していくのが本書だ。

著者は、現在、オックスフォード大学で教鞭をとっている著名な教育社会学者の一人である（執筆時は東京大学大学院教育学研究科）。教育社会学とは、聞き慣れない人もいるかもしれないが、社会学をベースとしながら教育について考える学問だ。本書では「勉強」「試験」「校則」「教科書」「先生の仕事」「生徒の世界」「学校と社会」などのトピックスが並んでいる。

例えば「どうして勉強しないといけないのか」について考えてみよう。小中学生に説明する場合を想定して、あなたはまず何が思い浮かぶだろうか？

まず「高校受験があるから」「良い大学に入れるから」などが思い浮かぶ人が多いかもしれない。考えてみると、これは学歴社会・受験競争を前提とした説明となる。こうした考え方を前提にすると、内申点や学校での試験、さらには塾や受験が価値づけられる。さらに良い高校に入れば、良い大学、良い職業につける、という想定もある。

これも一つの「回答」だが、これ以外の説明もあることに気づく。第二に「大人になったときに困らないように」「いつか勉強したことが役に立つ」など、学校知識が将来役に立つ＝活用可能性、という説明だ。

第三に「いろんな知識や考え方を身につけることで立派な大人になれる」といった、学校知識＝教養という考え方もある。文学の面白さ、数学や音楽・美術の楽しさを知る＝教養を得ることで、一人ひとりがより豊かな人生を歩むことができるかもしれない。こうして考えると「回答」は一つではないことに気がつく。また自分が自明視していた考え方もみえてくる。

社会学が大事にしているスタンスとして「自明のものを疑う」がある。学校の仕組みやルール、教育制度や慣習、これら一つひとつは学校の中にいれば「これはこういうもの」と教え込まれ、学校を卒業した人は「それが普通」と自明視しやすい。そうすると、ある種の思考停止に陥りやすい（例えば「この行事は～～だからなくせない」「この授業は～～だから変えられない」など）。こうなると、教育はたいへん窮屈なものになってしまう。本書は教育や学校制度を例にとりながら、「なぜ」の疑問を読者に問いかける。

社会学を通じて教育を考えてみると、そもそもの機能や背景となる構造に目をむける。そうすると、思考に柔軟性がうまれ、新しいアイデアがうまれてきやすい。あなたの「こうしたらどうだろう」「こうやってみよう」を後押ししてくれるはずだ。

「自由な発想で、楽しい学校をつくってみたい」そんな人に、是非手に取ってもらいたい一冊である。

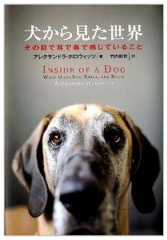
「リクエストと投票で話題の本を読もう!」

リクエストと図書館員が選定した巷で話題の図書を対象に、みなさまの投票で購入が決まります。
2015 年度より、毎年実施している人気の企画です。昨年度も、リクエスト・投票をありがとうございました。
その中で、人気のあった図書を月別に紹介します。話題の本をぜひご利用ください。

4・5月

長田弘『すべてきみに宛てた手紙』(筑摩書房)

犬から見た世界 ： その目で耳で鼻で感じていること / アレクサンドラ・ホロウィッツ(著)，竹内和世(訳)
開架　南館 2 階
489.56||H 89



すべてきみに宛てた手紙 / 長田弘(著)
軽読書　南館1階
||O 72

6・7月

宮島未奈『成瀬は天下を取りにいく』(新潮社)

村上春樹『街とその不確かな壁』(新潮社)

街とその不確かな壁 / 村上春樹(著)
軽読書　南館1階
||MU 43

成瀬は天下を取りにいく / 宮島未奈(著)
軽読書　南館1階
||MI 75

10・11月

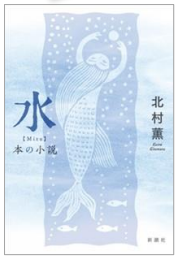
こころを旅する数学 ： 直観と好奇心がひらく秘密の世界 / ダヴィッド・ベシス(著),野村真依子(訳)
開架　西館 2 階　410.4||B 39

千葉からほとんど出ない引きこもりの俺が、一度も海外に行ったことがないままルーマニア語の小説家になった話 ＝ Eu nu prea ies din casă, abia de parasesc Chiba, nu am fost niciodată în străinătate, dar am devenit scriitor român / 済東鉄腸著(著)
軽読書　南館1階
||SA 25

12・1月

北村薫『水:本の小説』(新潮社)

水 ： 本の小説 / 北村薫(著)
軽読書　南館1階
||KI 68



町田康『告白』(中央公論新社)

告白 / 町田康(著)
軽読書　南館1階
||MA 16

新着電子BOOKのポスターを展示しています

新規に購入した電子書籍のポスターを、「新着図書コーナー」の横とグローバルスクウェアの廊下で展示しています。
各ポスターの下側にある QR コードは切り離し可能ですので、読みたい本/興味がある本があれば切り取ってお持ち帰りください。なお、学外から電子書籍を利用する際は「学認でサインイン」を選択し、学内アカウントの ID・パスワードを入力してください。

リクエストと投票で話題の本を読もう！

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画をしています！リクエストや投票にどんどん参加してください！

投票期間:4月1日(月)～5 月 18 日(土)

※結果によっては購入できないこともあります。
※学習研究目的のものは原則として購入しています。

京都教育大学
それはかなう夢講座

「先生になりたい－それはかなう夢」は、京都教育大学のシンボルフレーズです。「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。

※今までの回も視聴できますので、ぜひご覧ください！

第41回のお知らせ

YouTubeのみ公開予定です

【 講師 】小栗 優貴（社会科学科 講師）

【テーマ】なぜ学校で社会科を勉強するのだろう

<概要>皆さんは、どのような社会科の授業を受けてきたでしょうか。典型的な社会科授業として、先生が教科書のゴシック字（太字）を解説する授業があります。小学校6年生を例にとれば、「選挙権」「鎖国」等の教科書のゴシック字の意味や特徴について、先生が説明をしてくれる授業になるでしょう。確かに、当該授業を日本の学校で行えば、「日本人」として共通に知っておくべきことを学ぶことができるかもしれません。

一方で、社会科を研究する世界では、こうしたゴシック字を解説する授業について批判的に検討がなされ、新たな社会科授業が提案されてきました。その際に常に意識されていたことは、「なぜ学校で社会科を勉強するのか」という問いに答えつつ、授業をつくることです。

本講座では、この問いについて「社会化」「対抗社会化」「民主主義」「市民」という概念を用いつつ、初めての人にも分かるように答えていきます。これを機会に「なぜ学校で社会科を勉強するのだろう」という問いに色々な答えができるようになってみませんか。

主催：「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のためのカリキュラム開発」プロジェクト委員会

後援：京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館

予約制！図書館ツアー・講習会に参加しよう！

図書館ではさまざまな講習会を、予約制で開催します。レポート論文を執筆する前に、図書館職員から施設・サービス・資料の利用法を聞いてみませんか？ ご参加お待ちしています！

【申込方法】氏名・専攻・人数・希望講座・希望日時（曜日・時限（平日 11:30～17:15 まで））を明記の上、以下のメールまたはGoogleフォームから前日までにお申し込みください。調整の上、いただいたメールアドレスに開催日時を連絡いたします。

・メール：library@kyokyo-u.ac.jp

・Google フォーム：QR コードから申込可能

【集合場所】附属図書館カウンター

詳細は、ホームページやポスターで！

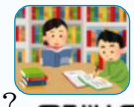
附属図書館開館時間の変更について

附属図書館では、令和 6 年度授業期の平日の閉館時刻、土曜日の開館時刻を変更し、開館時間の短縮を試行します。変更後の開館時間は以下のとおりです。

ご理解のほどよろしくお願いいたします。

		変更前	変更後
授業期	平日	9 時～21 時	9 時～20 時
	土曜	9 時～17 時	10 時～17 時
休業期	平日	9 時～17 時	9 時～17 時
	土曜	休館	休館

学修相談カウンター（ラーニングコモンズ）



院生がいろいろな質問に対応してくれます。

勉強や就職のこと、先輩に相談してみませんか？

今年度も実施予定です！

※詳しくは図書館ホームページにて→

メッセージボードを設置しました！

イベントのお知らせやメッセージなど、つぶやいています。

企画展示室（北館 1 階）

イラストサークル KITE 展 Choice MY COLOR

4月16日（火）から25日（木）まで開催しました。

児童書コーナー （南館 1 階）

幼児教育科主催 えほんのもり

今月の絵本カード（学生作）

『はらぺこあおむし』

作：エリック・カール

訳：もり ひさし

出版社：偕成社

※児童書コーナーにかわいいカードが飾られていますので、ぜひ見に来てください。

教育資料館 まなびの森ミュージアム

【5 月の開館日時】

13 日（月）、20 日（月）、27 日（月） 14:00～17:00

今月の逸品（4・5月）

『土製円盤』

醍醐遺跡（滋賀県長浜市）出土

教育資料館 まなびの森ミュージアム
https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/

京都教育大学紀要（大学発行の学術雑誌）に掲載された論文を、
執筆した先生本人にご紹介いただくコーナーです。

論のくちび理のむすび

今回の執筆者 **小林　賢太**（国文学科　講師）

『言葉集』注釈（六）

小林 賢太・穴井 潤・中村 文・持田 玲

京都教育大学紀要 2024, No.144, pp. 154-142
URI:http://hdl.handle.net/20.500.12176/9871

古典文学を“そのまま”読む、例えば墨と筆で書かれた写本を自力で読むのは至難の業です。そこで活躍するのが「注釈」です。原典を活字に起こし、本文を整え、難しい言葉には説明を施し、現代語訳をつけます。そうすることで、多くの人にとって読みやすい古典文学のテキストが完成します。今回は平安時代末期に成立した『言葉集』という私撰集（勅撰ではなく個人が編纂した歌集）の一部に注釈をつけました。しかしこの注釈という作業、地味な割にとても手が掛かります。

まずは底本（原典）を翻刻（活字にする）のですが、紙が虫に食われていたり、破れていたり、さらに書き写した人の字のクセが強かったりすると、判読が難しい字が出てきます。多少の推測を交えながら、しかし極力底本に忠実に翻刻します。『言葉集』の底本は、ひらがなではなくカタカナで書かれていました。なぜなら僧侶が書き写したからです。当時の僧侶はお経を読解する際、カタカナで書き入れをしていたため、カタカナの方が慣れていたのでしょう。こうして翻刻した後、古語の意味を調べ、当時の文化状況や和歌の先例と照らし合わせ、もっとも無理のない解釈、現代語訳を完成させます。

これまで『言葉集』の 78 首の和歌に注釈をつけてきましたが、『言葉集』は全部で 402 首。全ての和歌の注釈が終わるのは数年先になりそうです。すぐには結果の出ない地味な作業ですが、こうした地道な積み重ねが、新たな気づきや発見へと繋がっていきます。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 144号に掲載されています。
※京都教育大学リポジトリ「クエリ（KUERe）の森」https://ir.kyokyo-u.ac.jp/ に掲載されています。

開館日程

□9:00-20:00　■9:00-17:00　■10:00-17:00　■休館（CLOSED）

2024年5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2024年6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

6/1 創立記念日

※開館日程につきましては、変更となる場合がございますのでホームページをご確認ください。

●京都教育大学附属図書館ホームページ
https://www.kyokyo-u.ac.jp/library/
（QR ｺｰﾄﾞ →）

京教図書館 News No.284（2024 年 5 月号）
発行日：2024 年 5 月 1 日
編集発行：京都教育大学附属図書館
問い合わせ先：library@kyokyo-u.ac.jp

国立大学法人 京都教育大学 KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION